

製品名: IP10 (3O16) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe12695**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	11kDa

抗原情報

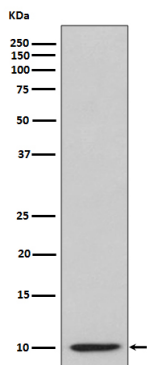
遺伝子名	CXCL10
別名	C-X-C motif chemokine 10; 10 kDa interferon gamma-induced protein; Gamma-IP10; IP-10; Small-inducible cytokine B10; CXCL10; INP10; SCYB10; MOB1;
遺伝子 ID	3627.0
SwissProt ID	P02778
免疫原	ヒト IP10 の合成ペプチド

背景

単球およびTリンパ球の走化性因子。CXCR3に結合する。末梢免疫細胞の走化性、分化、活性化、細胞増殖の調節、アポトーシス、血管新生抑制効果の調節など、幅広いプロセスに参与する炎症性サイトカイン (PubMed:7540647、PubMed:11157474、PubMed:22652417)。ウイルス感染において、免疫細胞の活性化と感染部位への遊走を刺激することで重要な役割を果たす (類似性による)。メカニズム的には、CXCL10がCXCR3受容体に結合することで、Gタンパク質を介したシグナル伝達が活性化され、ホスホリパーゼC依存性経路の下流活性化、細胞内カルシウム産生の増加、アクチン再構成が引き起こされる (PubMed:12750173、PubMed:19151743)。炎症部位では、活性化Th1リンパ球のリクルートメントが起こります (PubMed:12750173、PubMed:12663757)。CXCL10/CXCR3経路の活性化は、脳損傷に対するニューロン反応において、中枢神経系常在マクロファージ集団であるミクログリアを活性化し、損傷部位へ誘導する上で重要な役割を果たします。このリクルートメントは、ニューロンの再編成に不可欠な要素です (類似性による)。

研究分野

画像データ



IP10 組み換えタンパク質溶解物中の IP10 発現のウエスタン プロット分析。